

式 一 面 圖

年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	平面図・工種配置図
図面番号	16 - 1

令和7年度(補正) 緊急予防治山事業 林谷地区

平面図・工種配置図

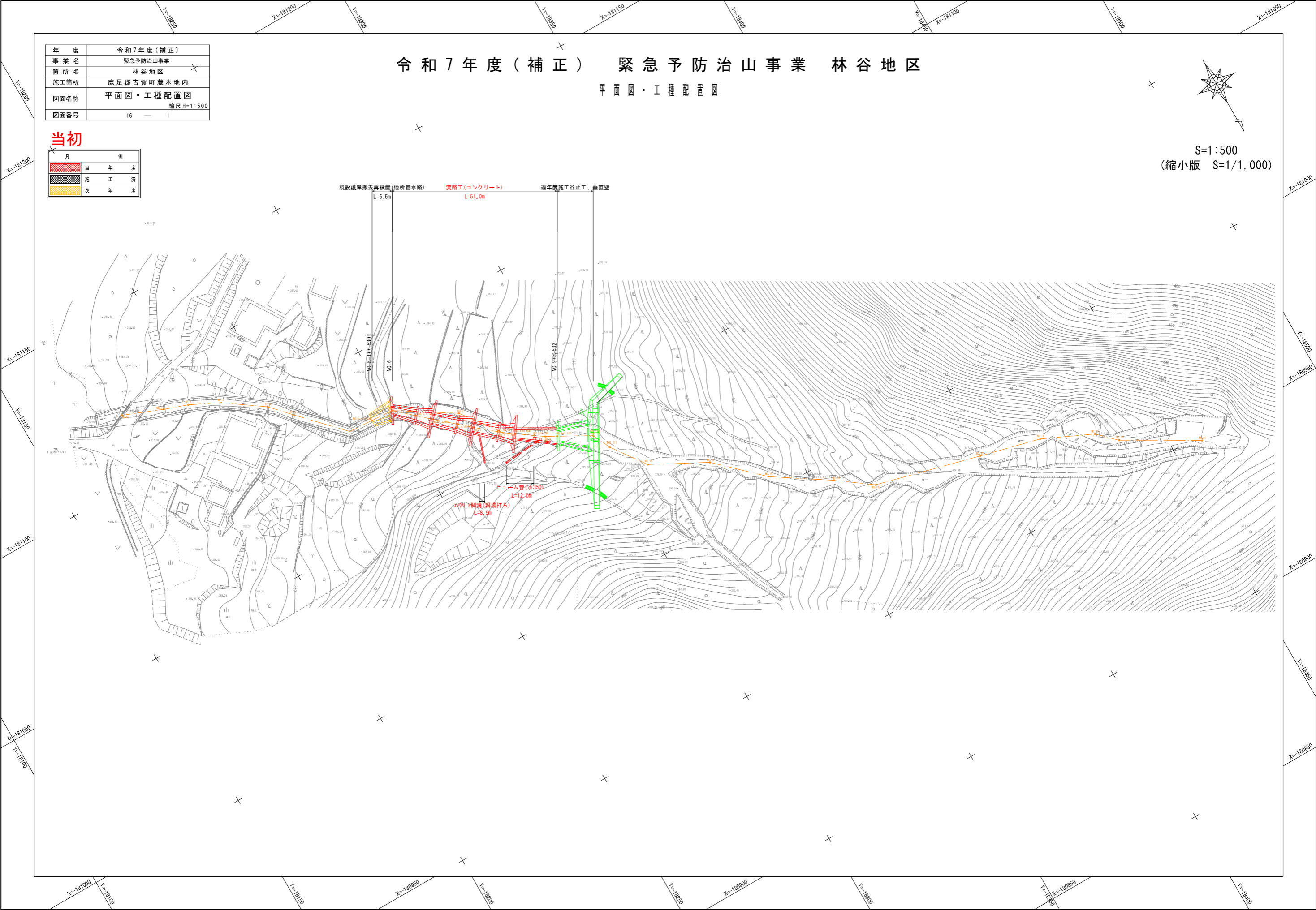
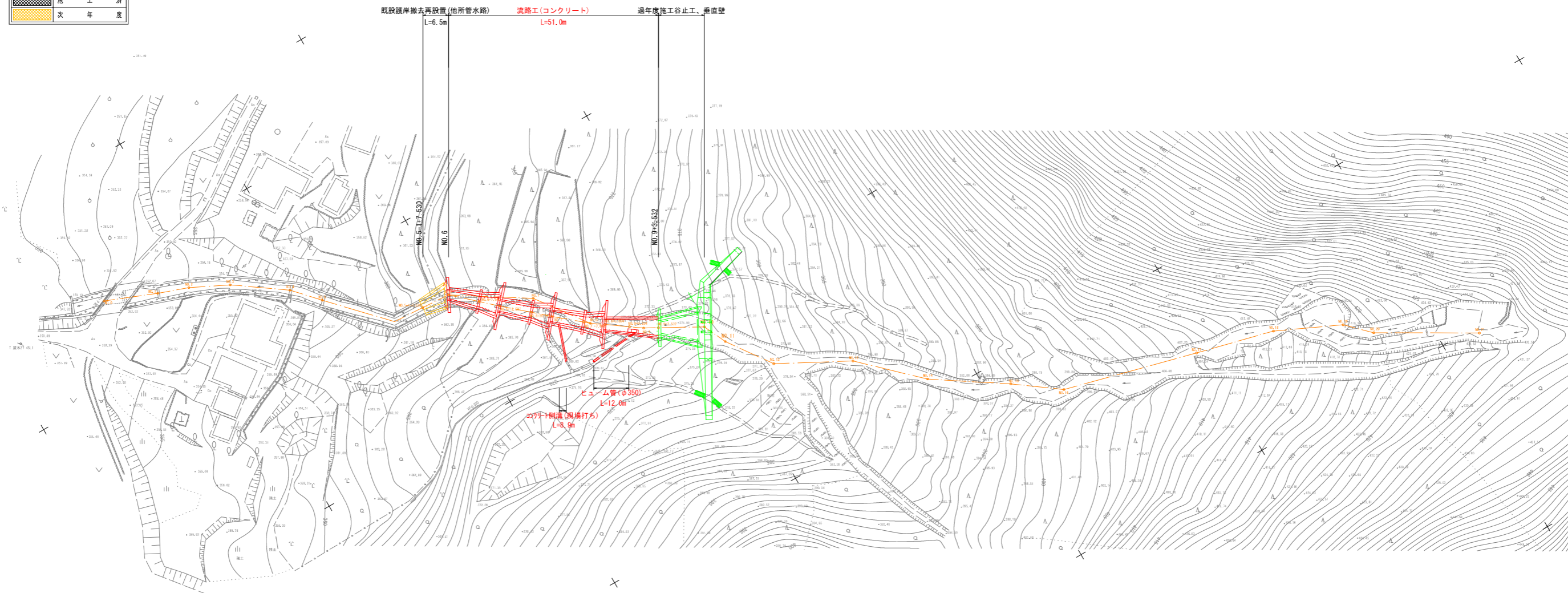


S=1:500
(縮小版 S=1/1,000)

当初

凡	例
	当年度
	前年度
	次年度

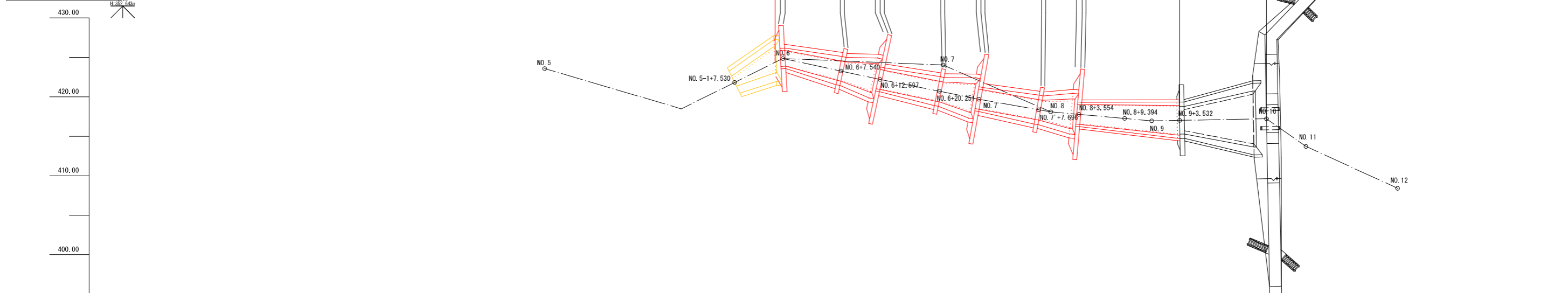
既設護岸撤去再設置(他所管水路) L=6.5m
 流路工(コンクリート) L=51.0m
 過年度施工谷止工、垂直壁



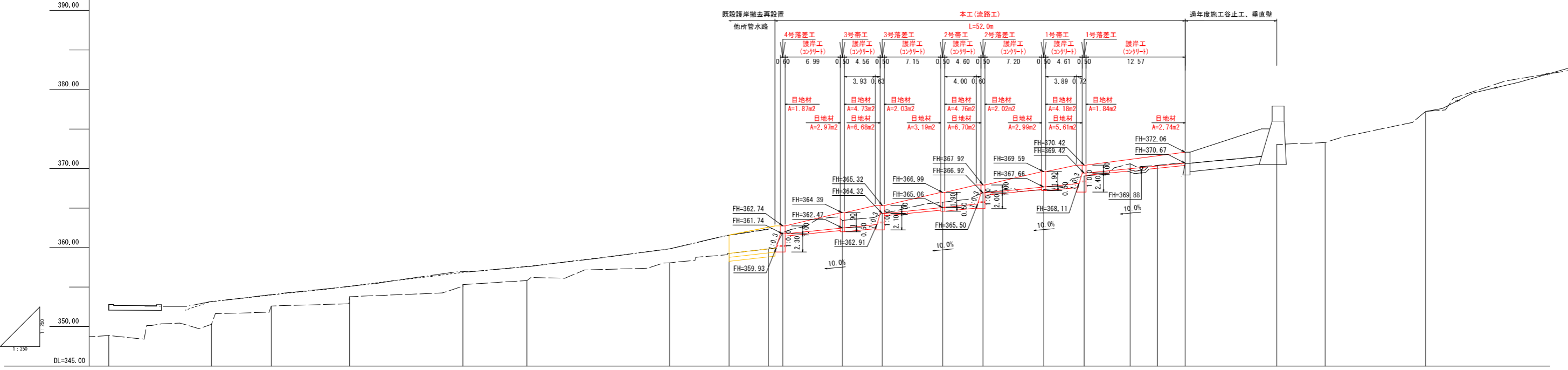
年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工平面図・縦断面図 V=1:250 縮尺H=1:250
図面番号	16 - 3

当初

凡	例
	当年度
	施工済
	次年度



流路工縦断面図



測点番号	NO. 0	NO. 1	NO. 2	NO. 3	NO. 4	NO. 5	NO. 5-1	NO. 5-1+7.530	NO. 5-1+12.511	NO. 6	NO. 6+7.540	NO. 6+12.597	NO. 6+20.251	NO. 7	NO. 7+7.696	NO. 8	NO. 8+3.554	NO. 8+9.394	NO. 9	NO. 9+3.532	NO. 10	NO. 11	NO. 12
水平距離	0.000	12.996	7.577	9.908	14.834	8.114	0.000	7.530	4.981	1.829	7.540	5.057	7.654	5.096	7.696	1.550	3.554	5.840	3.443	3.532	14.532	6.108	12.757
追加距離	0.000	12.996	20.573	30.481	44.834	52.948	71.004	78.534	83.515	85.344	92.884	97.941	105.595	110.691	118.387	119.947	123.501	129.341	132.784	136.316	147.899	154.007	166.764
地盤高	348.86	350.28	352.60	353.78	355.31	355.82	358.07	359.26	359.83	361.91	363.44	364.28	365.74	366.85	367.32	367.47	369.06	370.61	370.40	370.670	373.05	373.28	377.23
溪床勾配	$I=10.9\%$ $L=13.00m$								$I=16.1\%$ $L=72.35m$						$I=17.9\%$ $L=47.44m$						$I=20.1\%$ $L=33.98m$		

年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)構造図1
図面番号	16 - 4

流路工(コンクリート)構造図1

S=1:100

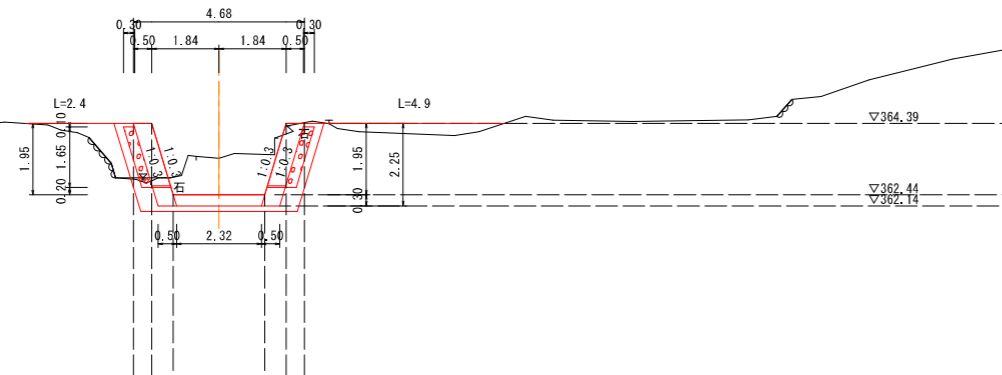
流路工施工における注意事項

- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 谷止工の基礎地盤の摩擦係数は $f=0.6$ 、許容支持力度は $q=81.62\text{ kN/m}^2$ 以上(1号落差工)、 $q=63.37\text{ kN/m}^2$ 以上(2号落差工)、 $q=67.90\text{ kN/m}^2$ 以上(3号落差工)、 $q=72.38\text{ kN/m}^2$ 以上(4号落差工)あることを確認すること。
- 4 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18\text{ kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 5 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

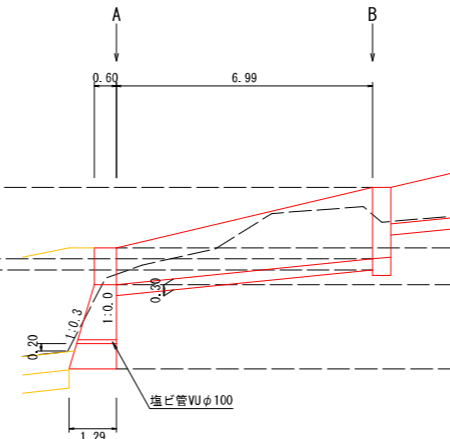
当初

凡	例
	当年度
	施工済
	次年度

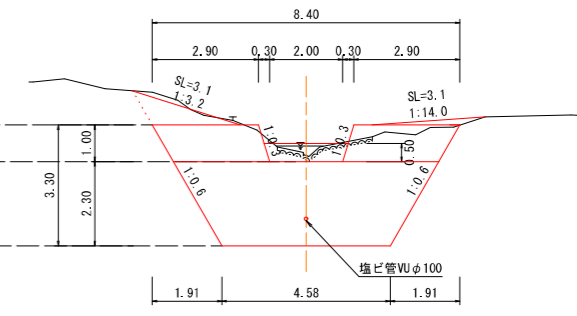
流路工正面図
NO. 6+7.540



流路工側面図
NO. 6~NO. 6+7.540



4号落差工正面図
NO. 6

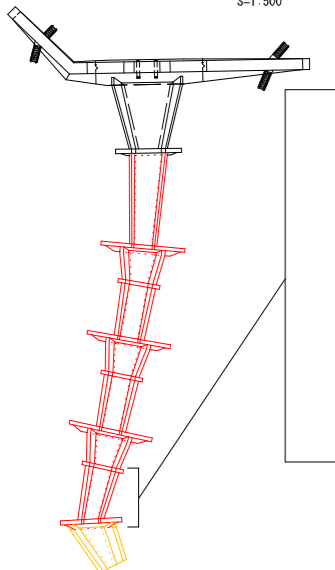


DL=355.000

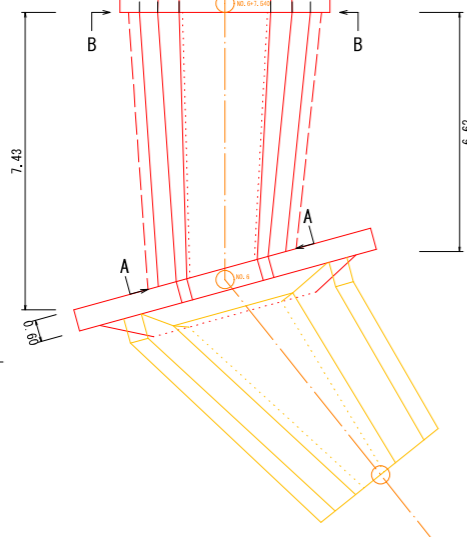
DL=355.000

流路工平面図

S=1:500



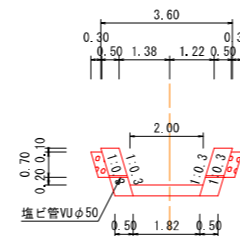
流路工平面図(4号落差工)
NO. 6~NO. 6+7.540



護岸工構造図

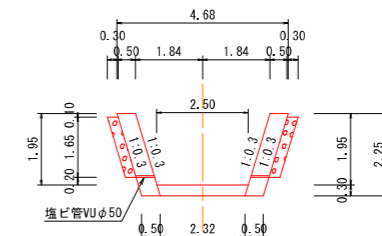
NO. 6~NO. 6+7.540

A-A断面



護岸=0.65m²
型枠=2.72m
裏込碎石=0.21m²

B-B断面



護岸=1.13m²
型枠=4.70m
裏込碎石=0.50m²

底板=0.57m²

底板=0.72m²

年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)構造図2
図面番号	16 - 5

流路工(コンクリート)構造図2

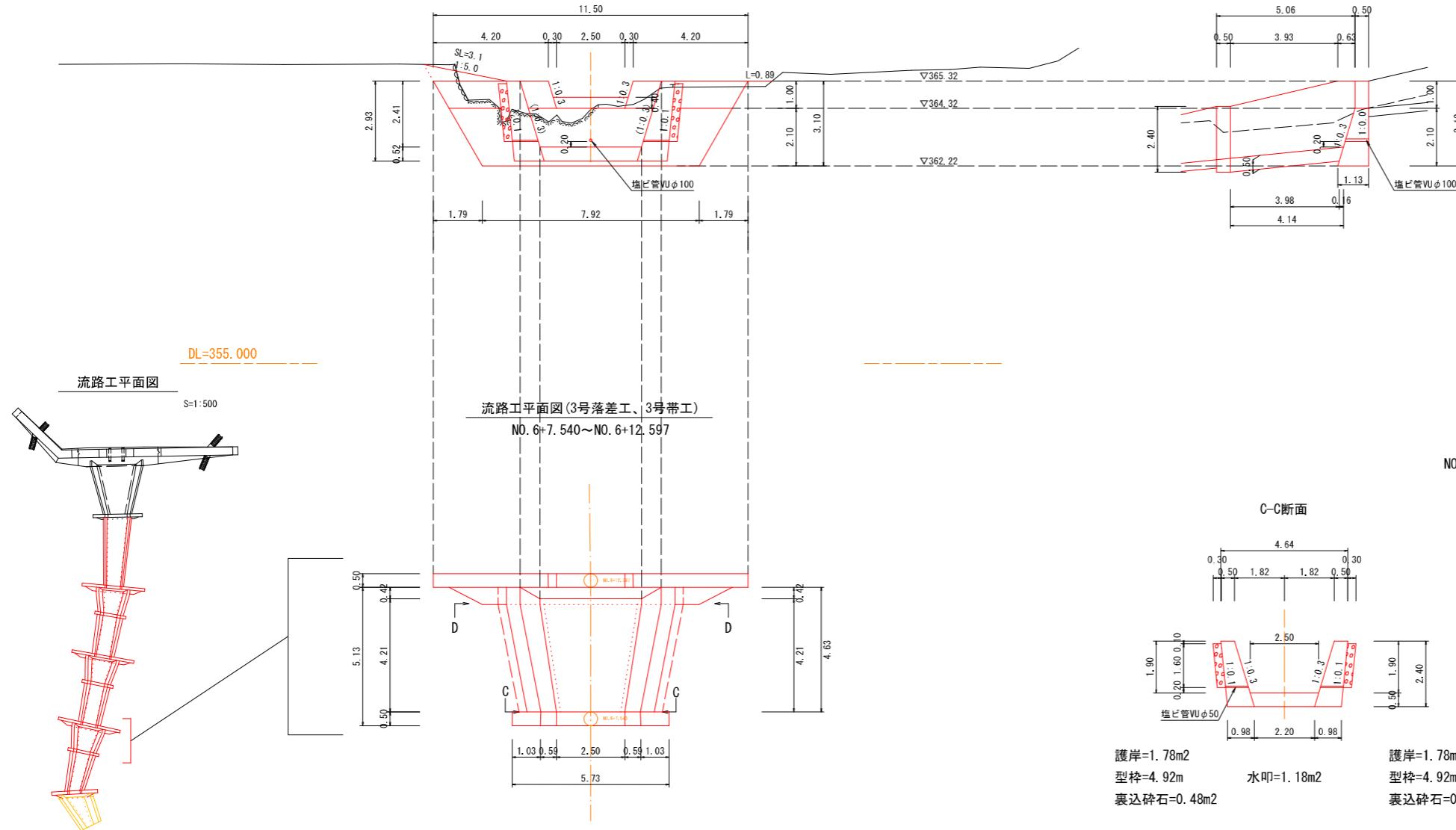
S=1:100

流路工施工における注意事項

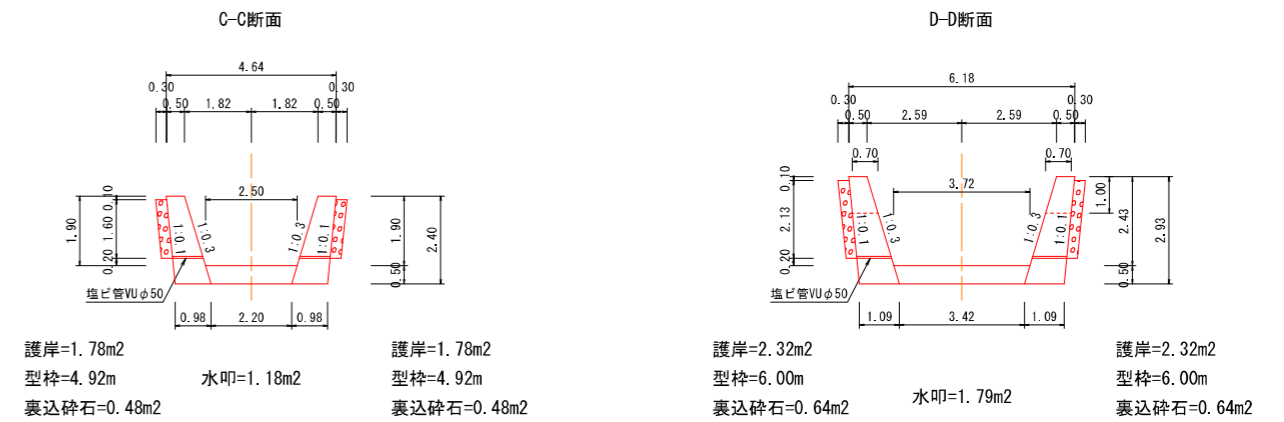
- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 谷止工の基礎地盤の摩擦係数は $f=0.6$ 、許容支持力は $q=81.62\text{ kN/m}^2$ 以上(1号落差工)、 $q=63.37\text{ kN/m}^2$ 以上(2号落差工)、 $q=67.90\text{ kN/m}^2$ 以上(3号落差工)、 $q=72.38\text{ kN/m}^2$ 以上(4号落差工)あることを確認すること。
- 4 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18\text{ kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 5 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

流路工正面図(3号落差工)
NO. 6+12.597

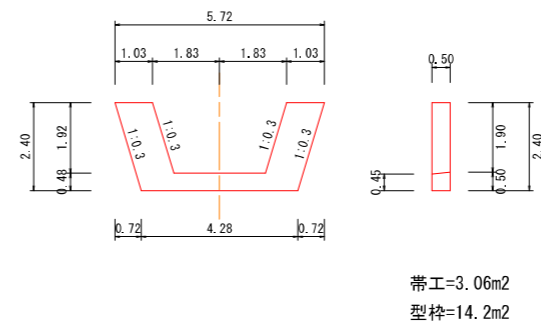
流路工側面図(3号落差工、3号帯工)
NO. 6+7.540~NO. 6+12.597



護岸工構造図
NO. 6+7.540~NO. 6+12.597



3号帯工構造図
No. 6+7.540



年度	令和6年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業 林谷地区 測量・設計業務
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)構造図3
図面番号	16 - 6

流路工(コンクリート)構造図3

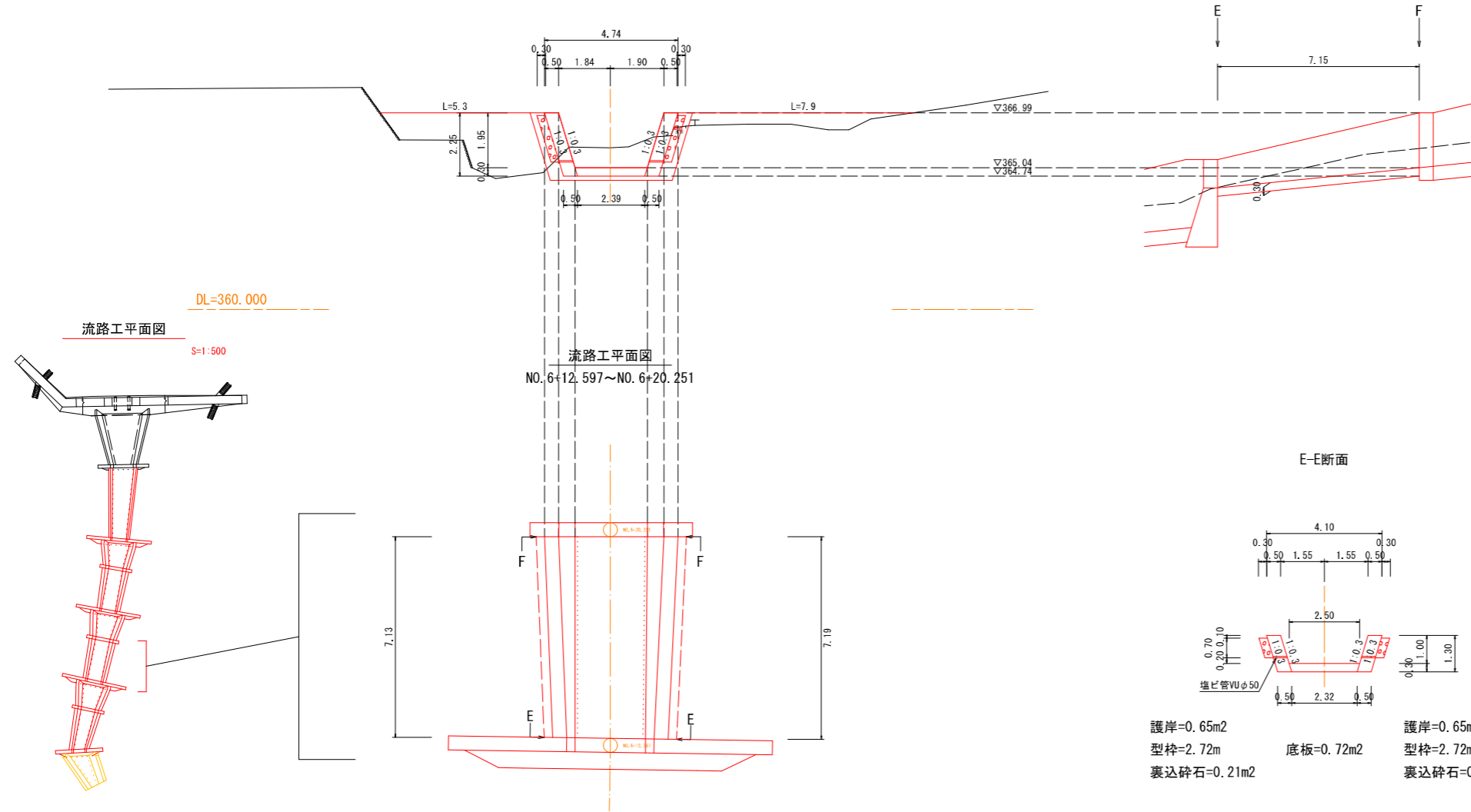
S=1:100

流路工施工における注意事項

- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 谷止工の基礎地盤の摩擦係数は $f=0.6$ 、許容支持力度は $q=81.62\text{ kN/m}^2$ 以上(1号落差工)、 $q=63.37\text{ kN/m}^2$ 以上(2号落差工)、 $q=67.90\text{ kN/m}^2$ 以上(3号落差工)、 $q=72.38\text{ kN/m}^2$ 以上(4号落差工)あることを確認すること。
- 4 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18\text{ kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 5 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

流路工正面図
NO. 6+20.251

流路工側面図
NO. 6+12.597~NO. 6+20.251



護岸工構造図
NO. 6+12.597~NO. 6+20.251

護岸=0.65m ²	護岸=0.65m ²	護岸=1.13m ²	護岸=1.13m ²
型枠=2.72m	型枠=2.72m	型枠=4.70m	型枠=4.70m
裏込碎石=0.21m ²	裏込碎石=0.21m ²	裏込碎石=0.50m ²	裏込碎石=0.50m ²

年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)構造図4
図面番号	16 - 7

流路工(コンクリート)構造図4

S=1:100

流路工施工における注意事項

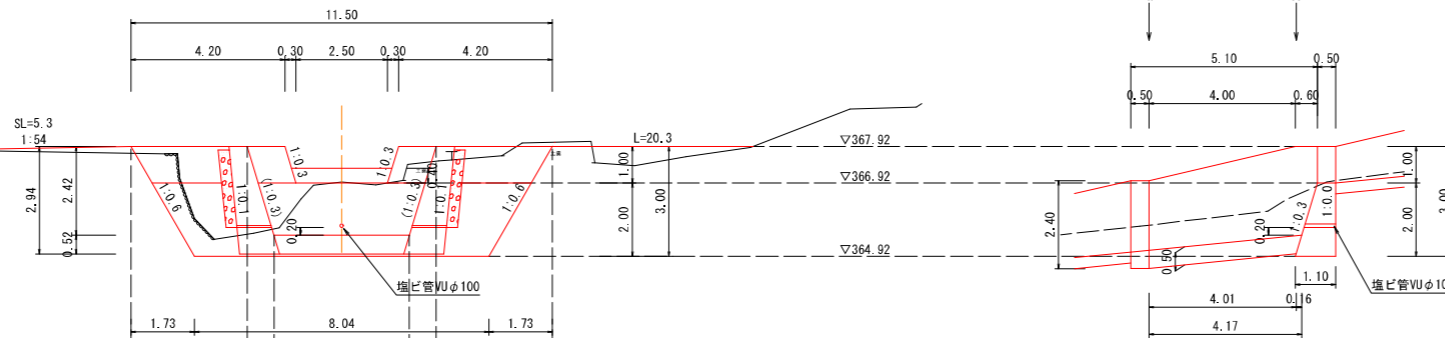
- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 谷止工の基礎地盤の摩擦係数は $f=0.6$ 、許容支持力は $q=81.62\text{ kN/m}^2$ 以上(1号落差工)、 $q=63.37\text{ kN/m}^2$ 以上(2号落差工)、 $q=67.90\text{ kN/m}^2$ 以上(3号落差工)、 $q=72.38\text{ kN/m}^2$ 以上(4号落差工)あることを確認すること。
- 4 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18\text{ kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 5 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

当初

凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度

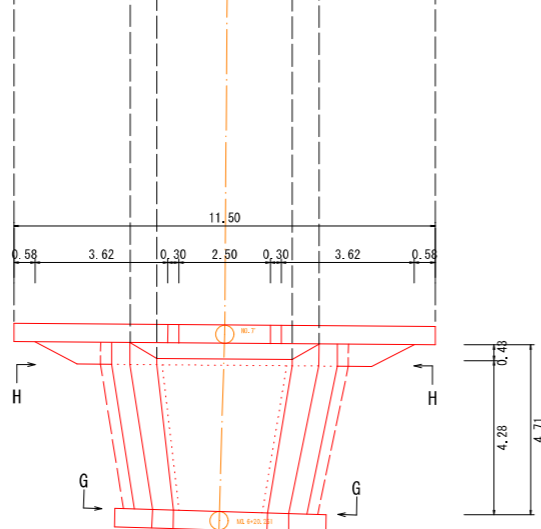
流路工正面図(2号落差工)
NO. 7'

流路工側面図(2号落差工、2号帯工)
NO. 6+20.251~NO. 7'



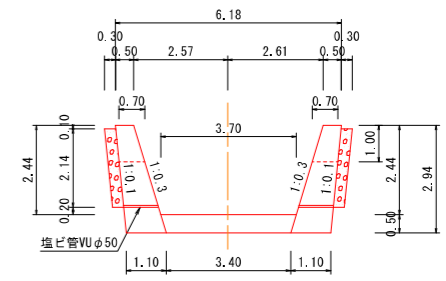
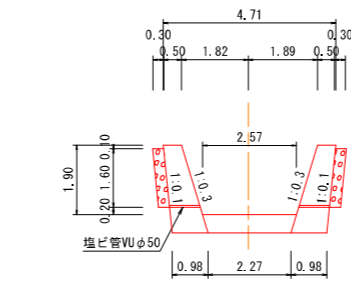
流路工平面図(2号落差工、2号帯工)
NO. 6+20.251~NO. 7'

護岸工構造図
NO. 6+20.251~NO. 7'



G-G断面

H-H断面



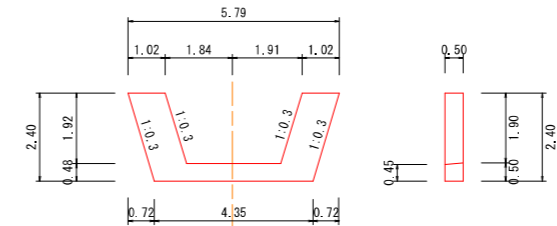
護岸=1.78m2
型枠=4.92m
裏込碎石=0.48m2

水叩=1.21m2
護岸=1.78m2
型枠=4.92m
裏込碎石=0.48m2

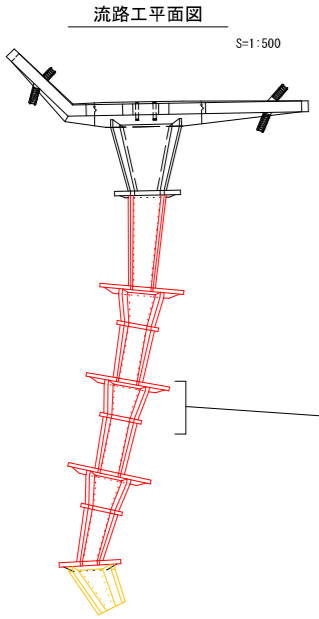
護岸=2.35m2
型枠=6.03m
裏込碎石=0.64m2

水叩=1.78m2
護岸=2.35m2
型枠=6.03m
裏込碎石=0.64m2

2号帯工構造図
No. 6+20.251



帯工=3.04m3
型枠=14.1m2



DL=360.000

年度	令和6年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業 林谷地区 測量・設計業務
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)構造図5
図面番号	16 - 8

流路工(コンクリート)構造図5

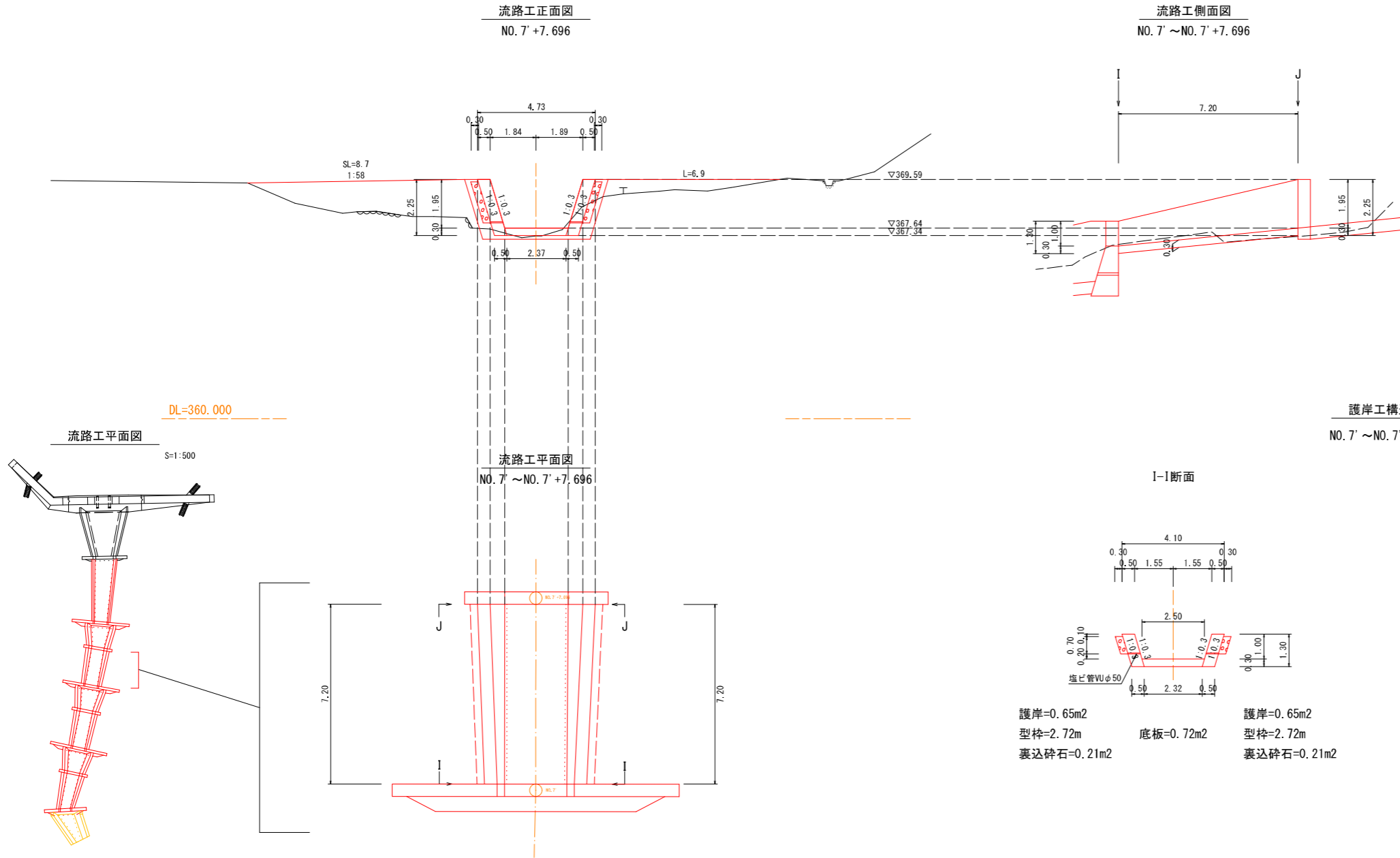
S=1:100

流路工施工における注意事項

- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 谷止工の基礎地盤の摩擦係数は $f=0.6$ 、許容支持力度は $q=81.62\text{ kN/m}^2$ 以上(1号落差工)、 $q=63.37\text{ kN/m}^2$ 以上(2号落差工)、 $q=67.90\text{ kN/m}^2$ 以上(3号落差工)、 $q=72.38\text{ kN/m}^2$ 以上(4号落差工)あることを確認すること。
- 4 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18\text{ kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 5 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

流路工正面図
NO. 7' +7. 696

流路工側面図
NO. 7' ~NO. 7' +7. 696



護岸=0.65m²
型枠=2.72m
裏込碎石=0.21m²

底板=0.72m²

護岸=0.65m²
型枠=2.72m
裏込碎石=0.21m²

護岸=1.13m²
型枠=4.70m
裏込碎石=0.50m²

底板=0.74m²

護岸=1.13m²
型枠=4.70m
裏込碎石=0.50m²

年度	令和6年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業 林谷地区 測量・設計業務
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)構造図6
図面番号	16 - 9

流路工(コンクリート)構造図6

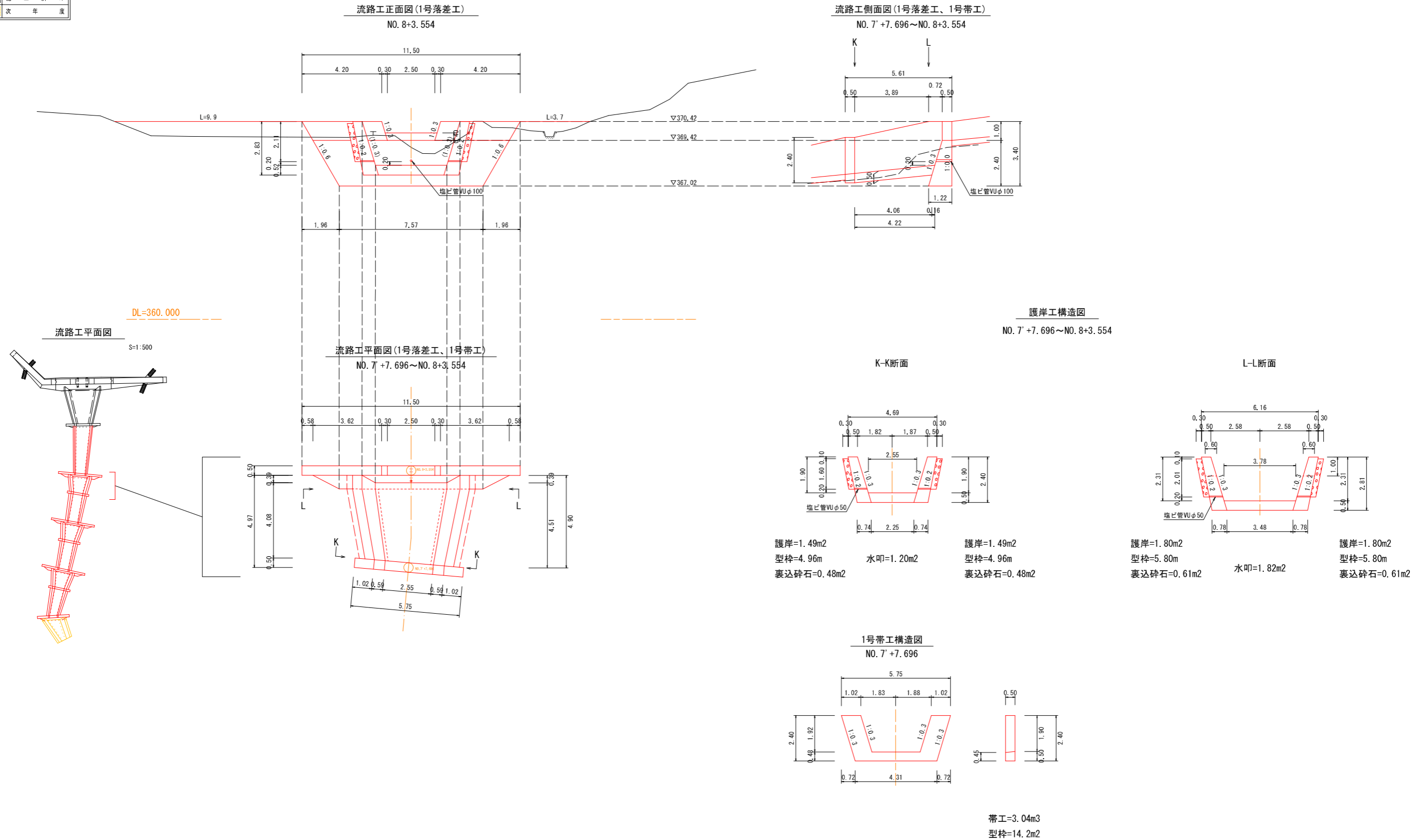
S=1:100

流路工施工における注意事項

- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 谷止工の基礎地盤の摩擦係数は $f=0.6$ 、許容支持力度は $q=81.62\text{ kN/m}^2$ 以上(1号落差工)、 $q=63.37\text{ kN/m}^2$ 以上(2号落差工)、 $q=67.90\text{ kN/m}^2$ 以上(3号落差工)、 $q=72.38\text{ kN/m}^2$ 以上(4号落差工)あることを確認すること。
- 4 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18\text{ kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 5 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

当初

凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度



年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)構造図7
図面番号	16 - 10

流路工(コンクリート)構造図7

S=1:100

流路工施工における注意事項

- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 谷止工の基礎地盤の摩擦係数は $f=0.6$ 、許容支持力度は $q=81.62\text{ kN/m}^2$ 以上(1号落差工)、 $q=63.37\text{ kN/m}^2$ 以上(2号落差工)、 $q=67.90\text{ kN/m}^2$ 以上(3号落差工)、 $q=72.38\text{ kN/m}^2$ 以上(4号落差工)あることを確認すること。
- 4 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18\text{ kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 5 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

当初

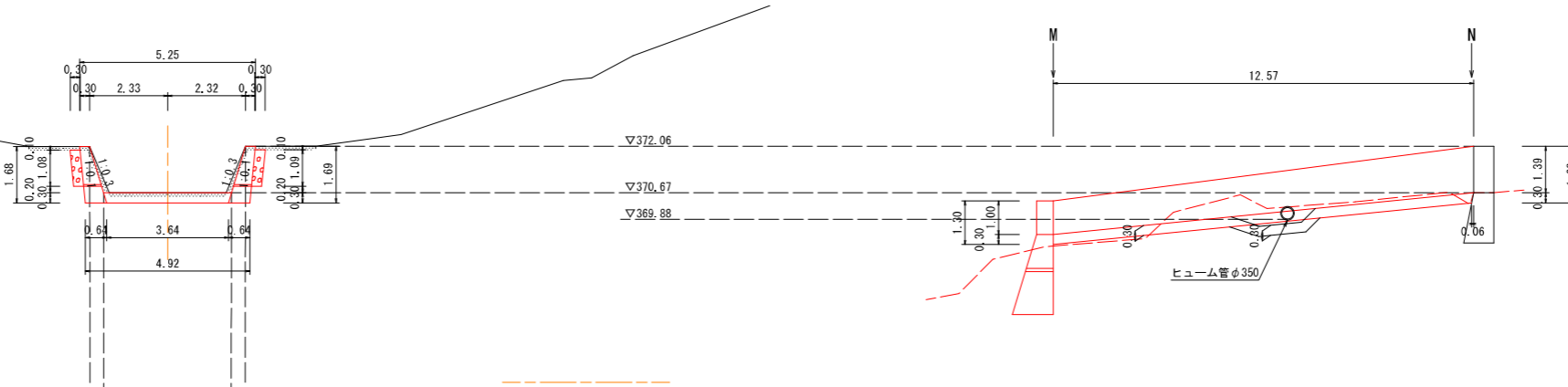
凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度

流路工正面図

No. 9+3.532

流路工側面図

NO. 8+3.544~No. 9+3.532



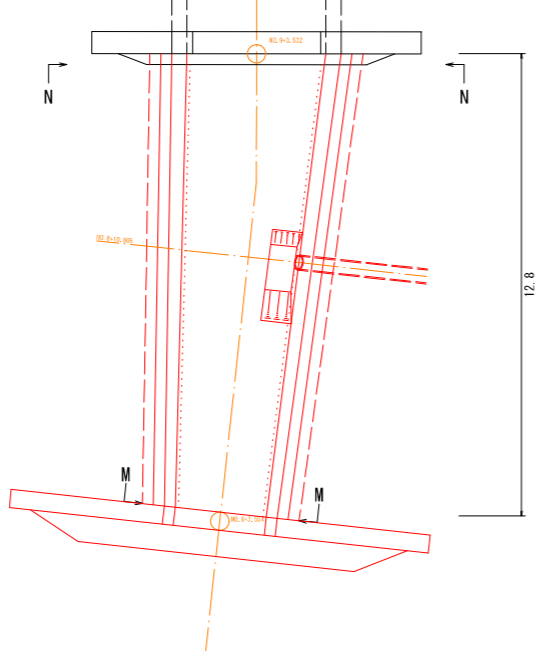
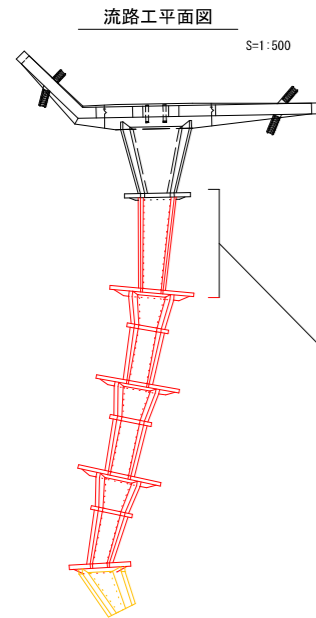
DL=365.000

流路工平面図

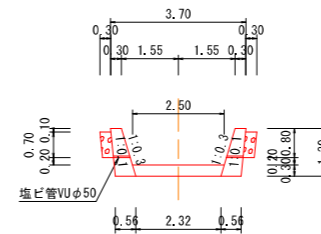
NO. 8+3.544~No. 9+3.532

護岸工構造図

NO. 8+3.544~No. 9+3.532



M-M断面

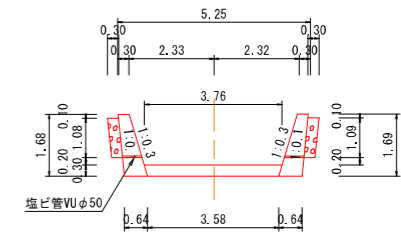


護岸=0.56m²
型枠=2.67m
裏込碎石=0.21m²

底板=0.72m²

護岸=0.56m²
型枠=2.67m
裏込碎石=0.21m²

N-N断面



護岸=0.79m²
型枠=3.45m
裏込碎石=0.33m²

底板=1.10m²

護岸=0.79m²
型枠=3.46m
裏込碎石=0.33m²

年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	付帯工(取水工)構造図2
図面番号	16 - 12

取水工構造図2

取水工施工における注意事項

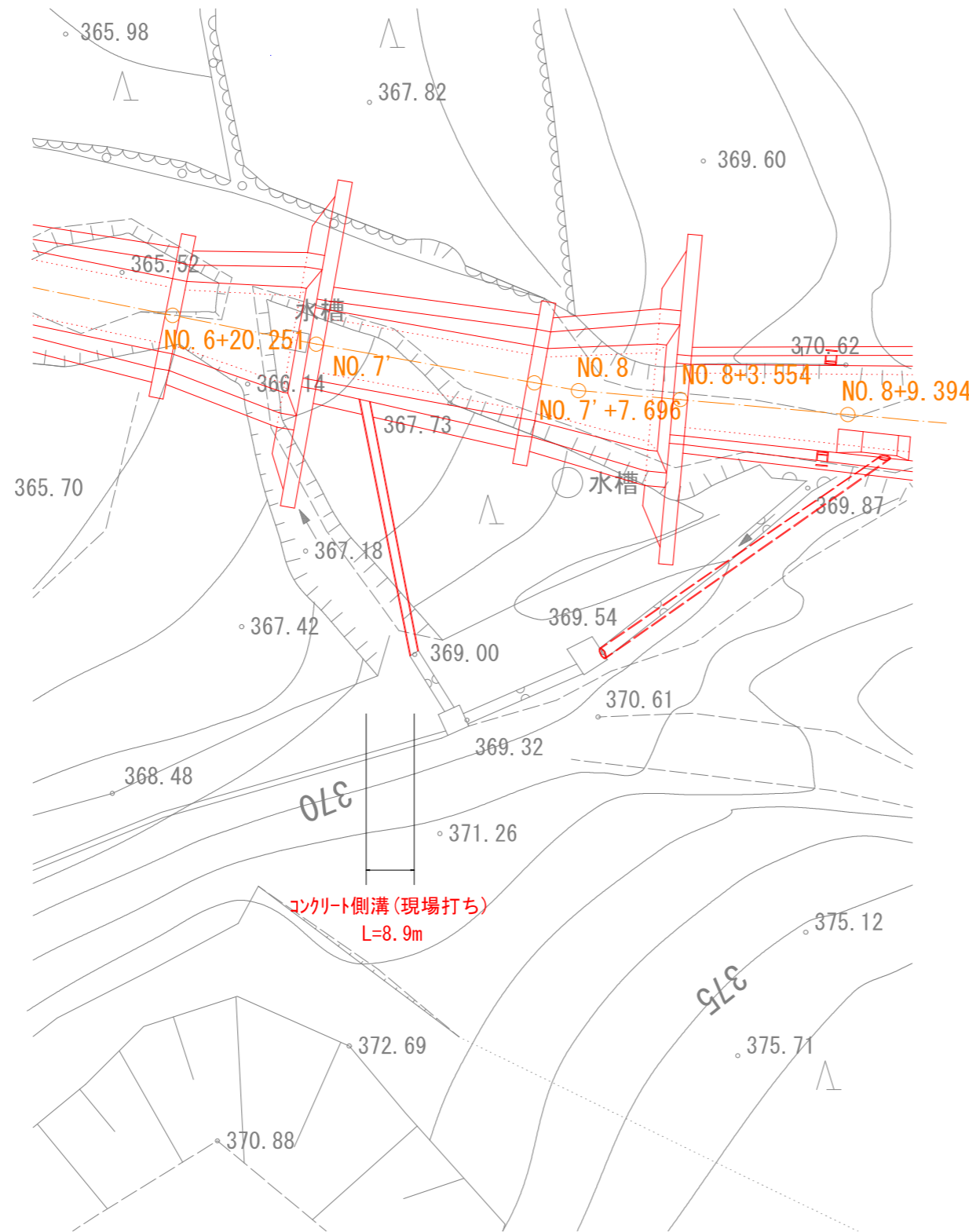
- 1 流路工へ戻すコンクリート側溝内で取水を計画する可能性があるため、施工の前に確認を行い、流路、形状が変更となる場合は監督員と協議のこと。

当初

凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度

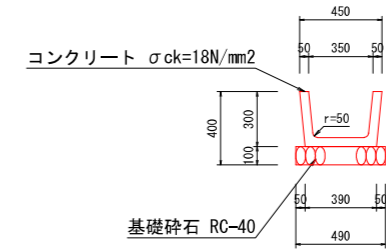
コンクリート側溝(現場打)詳細図

S=1:100



コンクリート側溝(現場打)

S=1:20



材料表

名称	規格	単位	数量	備考
コンクリート(現場打)	$\sigma_{ck}=18\text{N/mm}^2$	m ³	0.45	
基礎砕石	RC-40 t=100mm	m ²	4.90	t=100mm
同上型枠		m ²	1.05	

10m当り

年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)床掘・埋戻図1 縮尺 1/100
図面番号	16 - 13

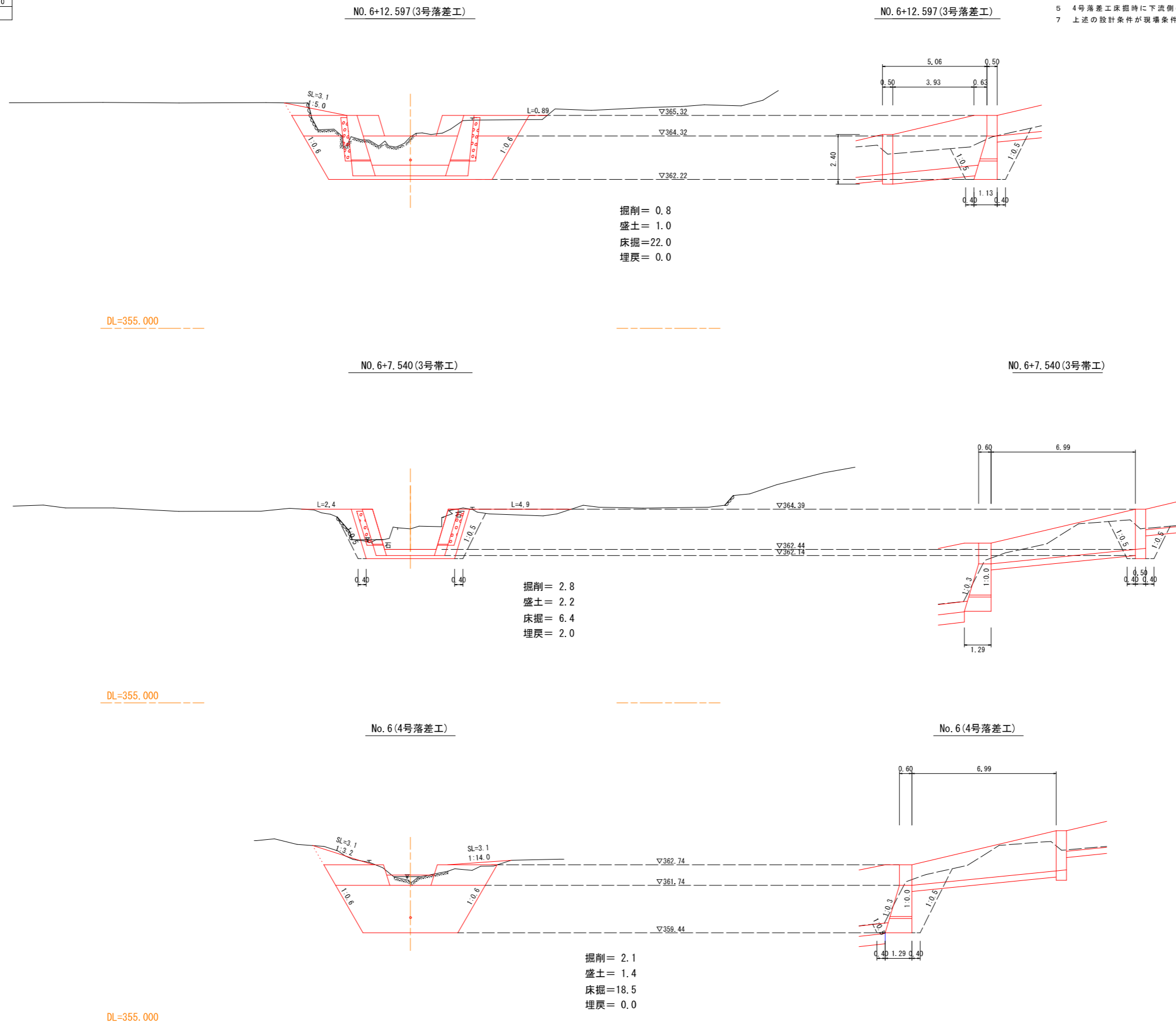
流路工(コンクリート)床掘・埋戻図1

S=1:100

- ### 床掘・埋戻における注意事項
- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
 - 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
 - 3 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $\gamma=18\text{kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
 - 4 埋戻しラインは基準であり、過大な埋戻しとならないよう現地合わせとする。
 - 5 4号落差工床掘時に下流側の他所管水路の床掘も合わせて行うこと。
 - 7 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

当初

凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度



年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)床掘・埋戻図2 縮尺 1/100
図面番号	16 - 14

流路工(コンクリート)床掘・埋戻図2

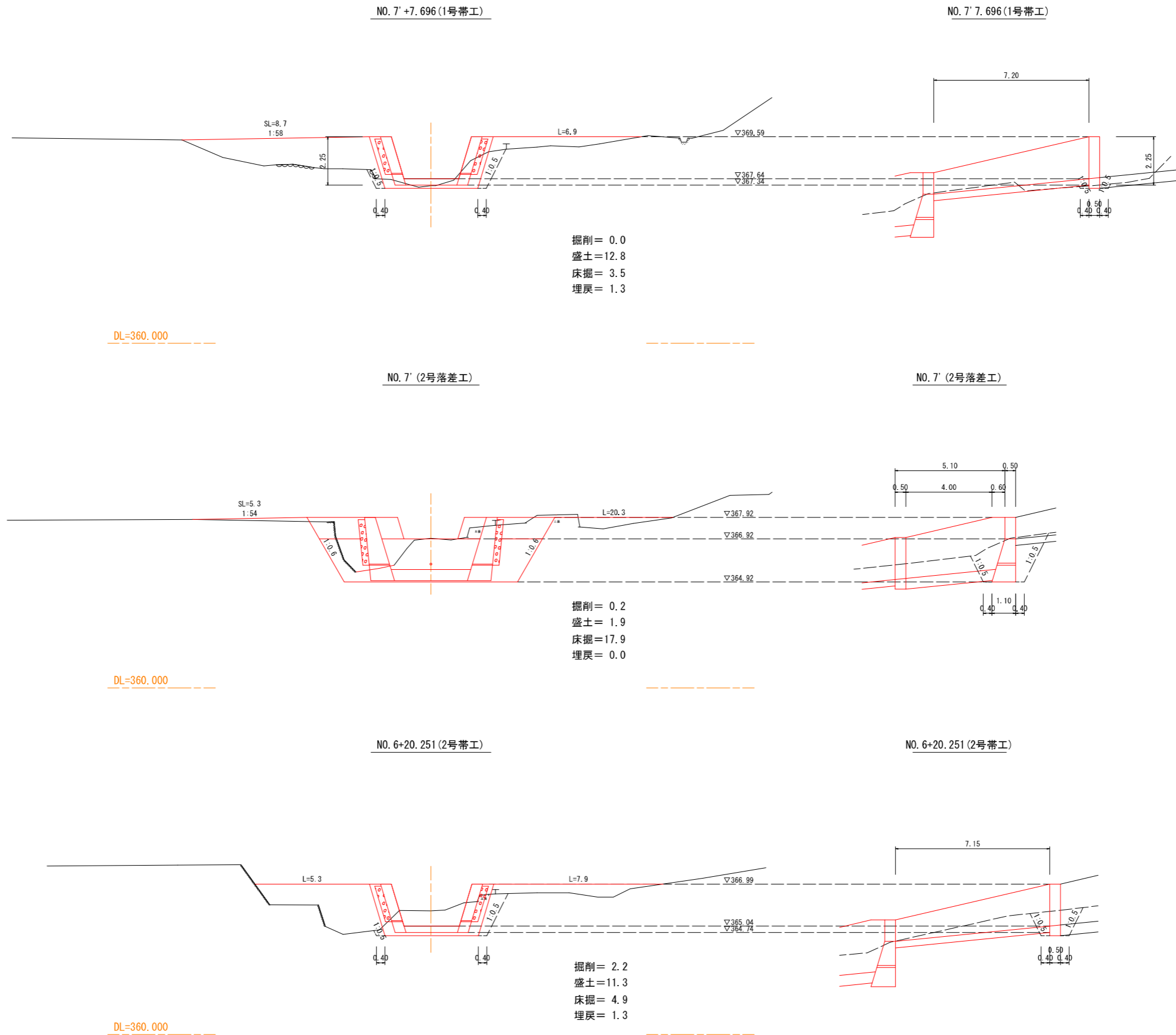
S=1:100

床掘・埋戻における注意事項

- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $\gamma=18\text{kN/m}^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 4 埋戻しラインは基準であり、過大な埋戻しとならないよう現地合わせとする。
- 5 4号落差工床掘時に下流側の他所管水路の床掘も合わせて行うこと。
- 7 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

当初

凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度



年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	流路工(コンクリート)床掘・埋戻図3 縮尺 1/100
図面番号	16 — 15

流路工(コンクリート)床掘・埋戻図3

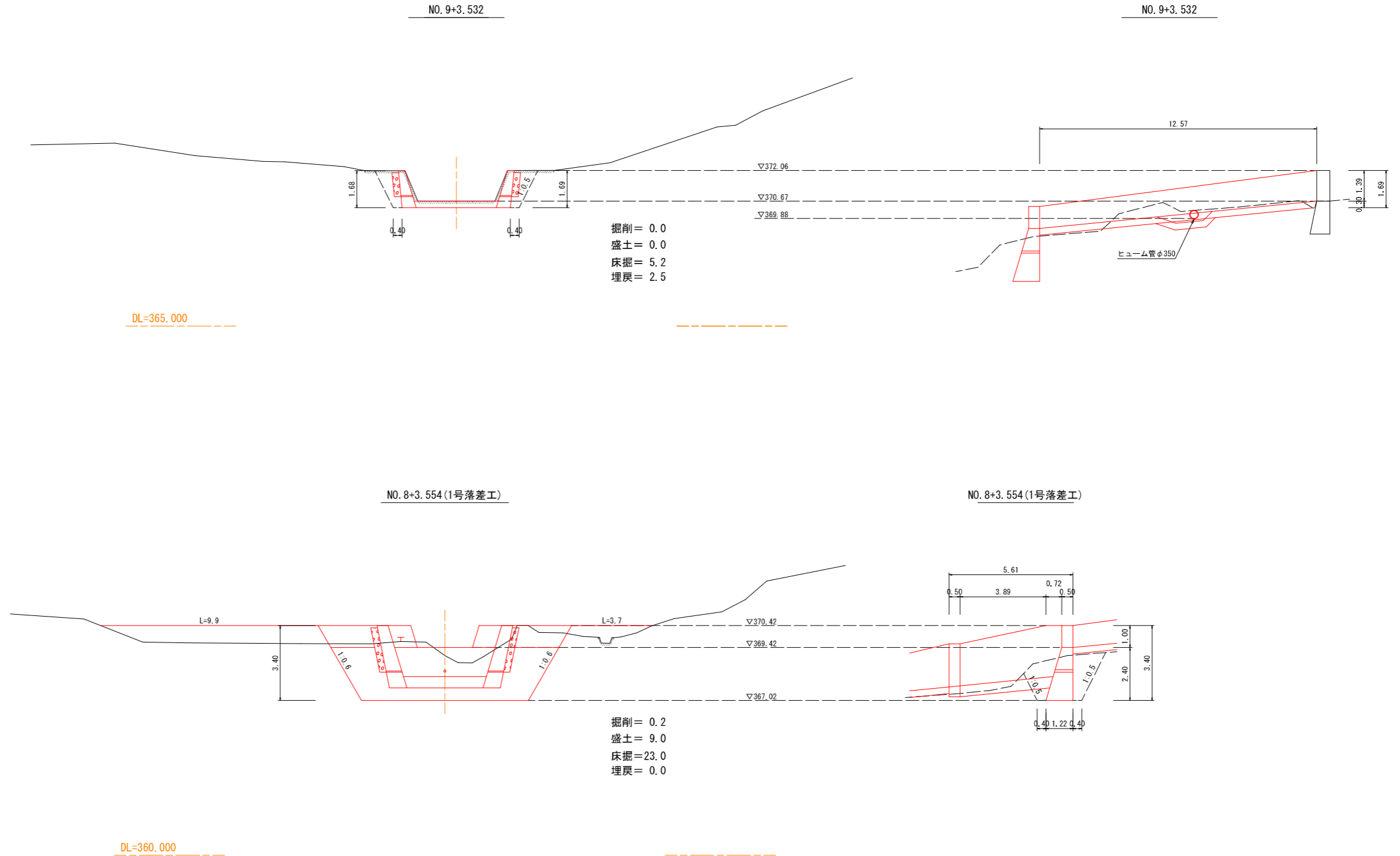
S=1:100

床掘・埋戻における注意事項

- 1 地質調査を行っていないので、地質状況は外観からの推定に基づいている。
- 2 床掘に際しては安衛則に従い、適切な掘削勾配で施工を行うこと。
- 3 護岸工の背面の埋戻し土砂は単位体積重量 $s=18kN/m^3$ 、内部摩擦角 $\phi=30^\circ$ (砂質土)での施工を見込んでいる。
- 4 埋戻しラインは基準であり、過大な埋戻しとならないよう現地合わせとする。
- 5 4号落差工床掘時に下流側の他所管水路の床掘も合わせて行うこと。
- 7 上述の設計条件が現場条件と大きく異なる場合には、監督員と協議のこと。

当初

凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度



年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	法面工計画図
図面番号	16 - 16

令和7年度(補正) 緊急予防治山事業 林谷地区 法面工計画図

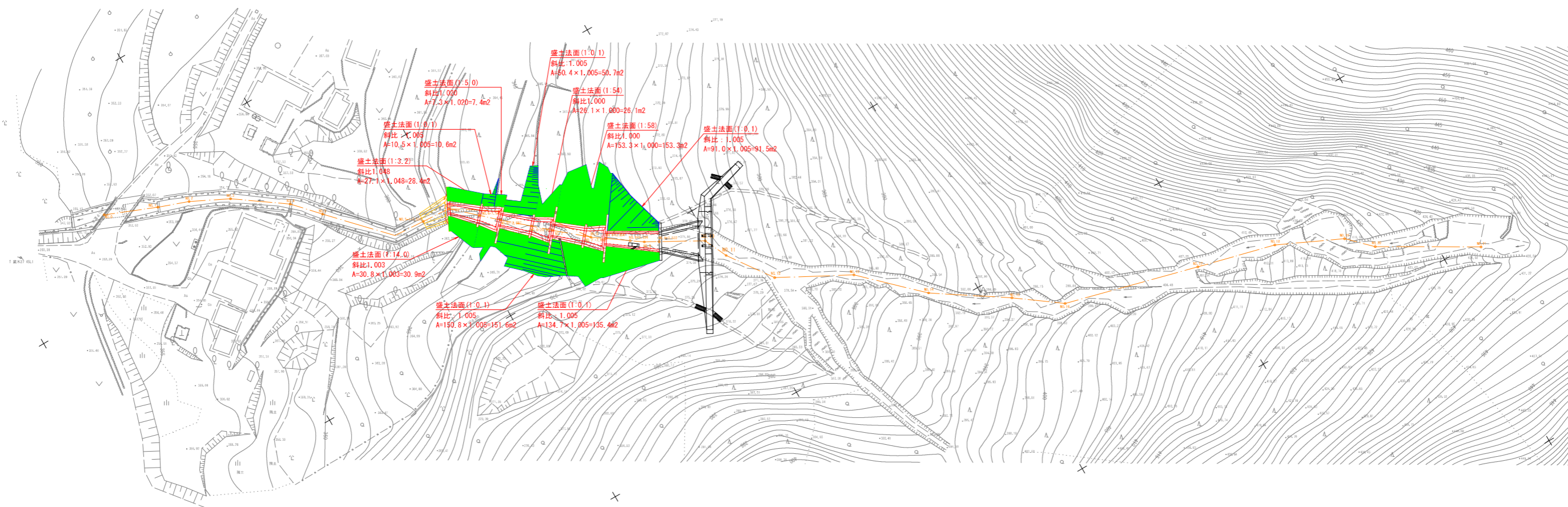


S=1:500
(縮小版 S=1/1,000)

当初

凡	例
	当年度
	施工済み
	次年度

盛土法面 緑化対象



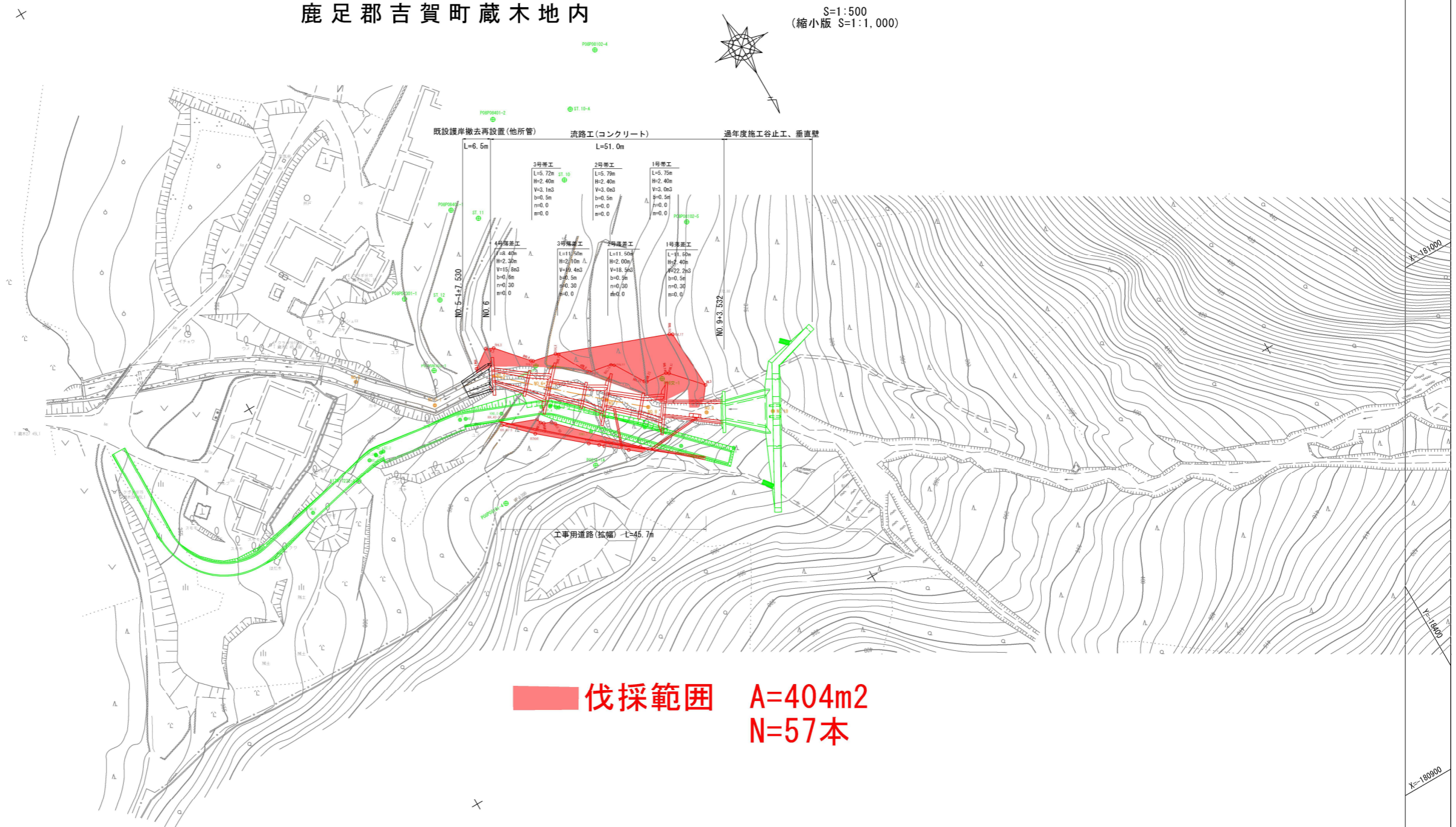
令和7年度(補正)緊急予防治山事業 林谷地区 伐採平面図

鹿足郡吉賀町蔵木地内

S=1:500
(縮小版 S=1:1,000)

年度	令和7年度(補正)
事業名	緊急予防治山事業
箇所名	林谷地区
施工箇所	鹿足郡吉賀町蔵木地内
図面名称	伐採平面図
図面番号	縮尺 1/500

凡	例
	今回
	既設
	他所管



伐採範囲 A=404m²
N=57本

請負者		株式会社三建技術	
調査者	計算者	検査者	照合者
印	印	印	印